

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

1148

高齢者在宅理美容サービス事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	2	高齢者の生活の充実
取組方針	2	高齢者が心身ともに健康な生活を送ることができるまちづくり

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他	○		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	社会福祉費		
	目	老人福祉費		
	大事業	老人福祉事業		
中事業	高齢者在宅理美容サービス事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	平成15年度	～	無し	担当課・担当課長・Tel	高齢者・地域福祉課	畠山 秀人 435-1063
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	外出が困難な高齢者に対し、訪問理美容サービスを行うことにより、心身に安らぎを与え、高齢者の福祉の増進を図る。		外出困難高齢者に対し、登録理美容師が訪問理美容を行うことで、福祉の増進を図る。			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	要介護認定による介護度が3・4・5でかつ寝たきり状態及び、外出が困難な方で生活保護世帯もしくは市民税非課税世帯に属する高齢者に訪問理美容を行った。	要介護認定による介護度が3・4・5でかつ寝たきり状態及び、外出が困難な方で生活保護世帯もしくは市民税非課税世帯に属する高齢者に訪問理美容を行った。	要介護認定による介護度が3・4・5でかつ寝たきり状態及び、外出が困難な方で生活保護世帯もしくは市民税非課税世帯に属する高齢者に訪問理美容を行った。	外出困難高齢者に対し、訪問理美容を行い、その費用の一部を負担する。	外出困難高齢者に対し、訪問理美容を行い、その費用の一部を負担する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	525	599	515	571	462	555	550	0	550	0	
伸び率(%)	△6.2%	28.5%	△1.9%	△4.7%	△10.3%	△2.8%	19%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	2,238	2,318	1,933	2,014	1,832	1,274	1,513	0	1,513	0
	正規職員以外	249	238	206	206	217	217	217	0	217	0
	小計	2,487	2,556	2,139	2,220	2,049	1,491	1,730	0	1,730	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	525	599	515	571	462	555	550	0	550	0	
所要人数(人)	正規職員	0.28	0.29	0.24	0.25	0.23	0.16	0.19	0.00	0.19	0.00
	正規職員以外	0.10	0.10	0.09	0.09	0.10	0.10	0.10	0.00	0.10	0.00
主な予算内訳	在宅理美容交付金 462千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
申請者数		人	目標値	160	160	160	160	160
			実績値	166	160	168		
			達成度(%)	103.8%	100%	105%	%	%
延べ利用回数		回	目標値	160	160	160	160	160
			実績値	171	163	185		
			達成度(%)	106.9%	101.9%	115.6%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	外出が困難な高齢者に対し、訪問理髪サービスを行うことにより清潔で快適な在宅生活を送ることが可能である。今後も事業を維持継続していきたい。
見直し・改善内容	周知徹底につとめる。